



第1地域 恒久基金/大口寄付アドバイザー 森川 昭正（仙台宮城野 RC）

去る 2025 年 4 月 27 日～29 日の3日間、エバンストンにある国際ロータリー本部において、2025 年度グローバル・フィランソロピー・セミナー (GPS ;Global Philanthropy Seminar)が開催されました。この GPS は新しく就任する E/MGA (恒久基金/大口寄付アドバイザー)及び EPNC (ポリオ根絶コーディネーター)を対象としたセミナーで、今回は世界各地域の 2025-26 年度から就任する次期 E/MGA;20 名、次期 EPNC;16 名が参加しました。

E/MGA がロータリーの地域リーダーの一つの役目として初めて任命されたのは 2013 年です。その後、日本の 3 地域で基本的に 3 年おきに1名ずつが任命されてきました。第1地域では私が5代目の E/MGA となります。

今回のセミナーは、自身がガバナーエレクトとして参加した国際協議会以来のグローバルなセミナーで、かつ、世界のロータリーのトップリーダーの多くに出会い、交流するという大変貴重な経験でした。

ロータリー会員であれば多くが憧れるロータリー発祥の地シカゴ近郊にある”ロータリー国際本部”。

ポール・ハリスら4人が初めて会合を開いた部屋が再現された One Rotary Center の 1 階にある当時のポール・ハリスの事務所前には、ポール・ハリスの銅像が出迎えてくれている様に立っていました。

2 日半の GPS では、E/MGA として今後どのように活動していくのか、いかなければならないのかを学びましたが、大きく以下の3つのことを学びました。

その一つはチームワークの大切さです。恒久基金/大口寄付の寄付者に限らず、財団への寄付への理解、促進するためには担当する地域、地区の RMC、RRFC、EPNC、RPIC、地区ガバナー、地区財団委員長、恒久基金/大口寄付小委員会委員長などとの連携が必要であり、また、前任者や他地域の関係者との連携も大事であることを学びました。二つ目としてはエンドポリオ、恒久基金/大口寄付への理解促進のためにはストーリーが大切であるということです。自分の経験から自分の言葉で伝えることの大切さを学びました。そして3つ目はロータリーが提供しているツールを十分に利用することです。E/MGA として閲覧権限を与えられるデータについても関係者と情報を共有しつつ、寄付者へのアプローチに繋げられるように検討していきたいと考えています。

また、GPS 全体として感じたことは、主催している側も参加している側も、みんながフレンドリーで自由に発言でき、共感する雰囲気が出来上がっていたことです。そのお陰で、自分なりに各セッションの討議において積極的な発言ができたと思います。

このセミナーで学んだことを活かし、3 年間の責務を全うできるように務めたいと考えていますので、どうぞ皆様のご指導ご鞭撻、そして何よりも大口寄付へのご協力をお願いいたします。

